

# 山麓探偵団通信

9月号

平成17年 9月号 (2005-9)

山中湖畔にける野鳥の数が、激減しているのを不思議に思い、他の地域はどうかときいてみました。箱根ではあまり変化はないようですが、シジユウカラが区属になっていて東京の巨鳥ではやはり目に見えて少ないそうです。皆さんの住まいの地域ではいかがでしょうか？

ヤマカラやシジユウカラのような鳥、オオルリやキビタキのような渡りの両方がそろって少ないので、何が原因なのか、日本野鳥の会に問い合わせたところ、そういう情報は今のところなく、そのうち十月ごろ来ますよと、実に懐きを答えていた。

さて、九月の探偵団は雨日とも天候に恵まれ、素晴らしい表富士の裾野に抱かれることができました。途中、想思鳥の鳴き声に背を押され、足元の小さな草花に目をみはりました。

## 参加団員の感想

霧で白くおおわれ、何も見えない御殿場口太郎坊駐車場に着いたとき、一瞬今回の参加を後悔したのを思い出します。

その前日、はじめての参加を急に決め

どこを歩くのかもわからず、標高差が三〇〇メートルではなく、実は四〇〇メートル以上あることが判明。そしてこの霧の中。不安だらけの出発でした。しかし、それらの不安が解消されるには、さほど時間はかかりませんでした。登山道に入ったころには、靑空が顔を覗かし、ここちよい風を受けながら、林の中を和気あいあいと楽しい雰囲気ですタートしました。



《双子山、宝永山、富士山のトリプル山頂を仰ぐ》

楚々として可愛らしいフジテンニン草の群生、笹の下で目だたず、そして怪しげに咲くキンリョウ草、ドキッとさせられる真っ赤なマムシ草の実。さらには樹木の葉は、香り、葉脈、葉のつき方にそれぞれ違いがあることを、知りました。

大漏れ日の中、アサギマダラが野鳥のさえずりに合わせて、まるで踊っているように飛び交っています。

最近では、温暖化の影響やヘットとして飼われていた外来種の野鳥が野生化して、生態系がかなりくずれていると

か・・・森の生態系をこわしているのが人間だとしたら、その報いは甘んじて受けよう。しかし、森に生きる生き物たちには罪はないから、なんとかストップできないものが、無力な一個の自分が、そんなことを考えて足をすくめている。いつのまにか眼の前がぼっと開け、今までとはまったく違う世界が・・・

広々とした砂地にフジアザミの花が点々と咲き、双子山、宝永山、富士山と手前から重なり、ホップ・ステップ・ジャンプと、まるで富士山頂に手がとどきそう。

反対方向には、雲海の下に愛鷹山そして天城山。

その雄大な景観に、ふと無欲になっっている自分に気づく。登ってきた甲斐があった。あんなに不安だった標高差も、ゆっくり登れば問題はないし、事前にコースがはっきりわからなかったのも、今にすれば楽しい。スタート時点でその頂が見えていたら、きっと怖気ついていたかもしれない。それを隠してくれていた霧に感謝しながら、満足感いっぱい下山しました。メンバーの方々、ありがとうございました。(T・Y)

## 十月の探偵団活動の案内

### 【十月のテーマ】

秋の表富士(静岡県側)を歩こう！

担当団長・伊藤浩美さん

(「富士山麓日記」などの映像カメラマン)

内容：水ヶ塚から宝永火口の縁をとお、樹林帯(スコリア)はありません(ん)を歩くコースを案内していただきます。歩く時間はのべ三時間以上ですが、登りはほとんどなく、五合目からのなだらかな下りです。

活動日：十月十三日(木)十五日(土)

集合：午前九時に、山中湖畔旭日丘ゼンインレブン横の広い駐車場

\* 静岡方面の参加者は、現地集合

参加費：二三〇〇円

持物：昼食、敷物、雨具、双眼鏡等

申込締切：それぞれ二日前までに、あみんにお願います。

発行：山麓探偵団事務局

電話：〇五五五・六五・七〇三三

編集人：樋口裕峯